

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室3号館			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～	令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～	令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 2月 1日		～	令和7年 3月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	丁寧で質の高い訪問支援であること。	児童の特性に応じて、訪問経験の豊富な指導員や保育士、作業療法士が専門性のある支援を積極的に行っています。訪問記録を丁寧に作成し、課題に応じてグラフを活用し、保護者様からの要望、具体的な支援場面の説明や訪問前後の変化などを訪問毎に明記しています。	支援の質を高めるために、事業所内での事例検討や複数名担当による支援の振り返りを行っています。訪問支援に関連する研修への参加も推奨し、他事業所との情報交換や事例検討を通じた勉強会への参加を促します。
2	関係機関との連携と情報共有に努めていること。	訪問記録作成後以外にも訪問直後などで情報共有を行い、細かい情報交換ができるように配慮しています。定期的に病院や学校、学童などの関係機関との話し合いの場を設け、召集の要望に応じて参加できる体制も整えています。参加が難しい場合は、報告書を作成し情報提供を行っています。	より分かり易くお伝えできるように、事業所内でのロールプレイ実施を増やし、訪問時以外にも送迎時などの学校訪問時、担当者による聴き取りの場を設けることを検討します。公式LINEなど、お電話や対面以外での情報共有ツールの活用を検討します。
3	保護者様への情報共有を密に行っていること。	報告書を活用して、訪問時の様子について都度、情報提供を行っています。必要に応じて、公式LINEやお電話、対面での報告を行っています。また、介入前にはアセスメントシートを活用した丁寧な聴き取りを行い、児童の特性や困り事、学校などの場で気になることを把握しています。	訪問内容の報告以外にも、ご家族様のためになるペアレントトレーニングなどの研修の案内を行っています。訪問後すぐに報告できる体制を整え、ご自宅での様子なども必要に応じて聴き取りし、訪問支援に活かす取り組みを進めています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援を行う職員の数が十分でない場合がある。	訪問支援に関する知識や技術への習得に時間がかかってしまう状況があります。訪問支援を必要としている児童の数が、時期によって多くなる状況があります。訪問に関する目標設定や終了時期の目途、支援の必要性を検討する機会が不十分な状況があります。	訪問支援ができる職員の育成を優先的に行っていきます。訪問の必要性について、保護者様や関係機関との情報共有を行い、ゴールに向けて支援を行います。
2	学校の先生との情報共有が十分でない場合がある。	訪問の報告が交流級、または支援級の先生のみとなる状況があります。窓口となる先生への細かい情報共有や負担を考慮した関わりが不足していると考えています。	交流級、支援級で関わる先生方に情報共有できるように配慮します。具体的には、それぞれの先生方への報告や要望の聴取を行い、必要に応じて、話し合いの場を設けるなど、関係者全体に対して情報共有できるようにします。
3	家族に対する支援が十分でない場合がある。	ペアレントトレーニングなどの家族支援プログラムができる職員が少ない状況があります。研修について情報を集めて発信する機会が少ないと考えています。	家族支援プログラムに関する研修への参加を推奨し、実施出来る職員からの情報伝達の間を設けていきます。家族支援プログラムなどの情報を収集し、公式LINEやブログなどを活用した発信を増やしていきます。